



# 古文書講座～教え教えられ

山本 光正

(交通史学会会長)

5～6年ほど前から江戸時代の文書の読み方を教えるようになった。

学生時代に後輩に教えたことはあるが、60歳を過ぎて本格的に教えるようになるとは思ってもみなかった。しかも出版社に依頼されるままに『六十の手習い 古文書を読む』（同成社）などという本も出版してしまった。

江戸時代を研究する筆者は、古文書が好きで読み始めたわけではない。論文を書くために覚えたのである。一方、受講者の多くは古文書そのものを読みたくて、読みたくて学んでいる。

このような環境で講義していると思わぬ質問を受けたり、講義の準備をしているとき、今まで考えもしなかったような発想や妄想が頭の中に渦巻くことが度々ある。妄想を心に留めておくに体良くないので、この場を借りて吐き出させてもらうことにしよう。

\* \* \* \* \*

古文書を教えるようになって最初の妄想は、なぜ公文書を始めとする文章は崩して書くようになったのだろうか、ということである。

ここではとりあえず古代・中世から

の歴史的背景は端折って、江戸時代について述べていこう。……というより古代・中世の古文書について述べるだけの知識がないということだが。

古代の公文書などは楷書・漢文で書かれていたようで、江戸時代にも楷書で書かれる文書もあるが、ほとんどが崩し字である。漢字文化圏で文書を崩し字で書いたのは日本だけではないだろうか。もちろん芸術としての「書」は別であるが。

日本人が作りだした最高のものは平仮名だろう。その平仮名が崩し字なのだから、崩し字で文章を書くようになって、何の不思議もないだろう。

古文書講座の受講生が疑問を感じるひとつはなぜ崩すかである。そこで筆者はAをaと書くようなもので、複雑な漢字も崩して書けば簡単と答えると、狐につままれたような顔で納得する。寺子屋のテキストも崩し字である。

もうひとつは同じ平仮名がいくつもあることである。現在「あ」と発音する平仮名は一つしかないが、本来「あ」と発音する平仮名はいくつもあった。たとえば「は」は「波」がもとになっ

てできた平仮名だが、「者」「盤」「半」「葉」等々がもとになった「は」がある。

多数あった平仮名は明治33年(1900)の小学校令規則により48文字に制定されている。そしてこの時採用されなかった平仮名は変体仮名と呼ばれるようになった。

波・者・盤・半・葉は「は」と発音する平仮名のもとになったわけだが、それではなぜ「波」以下の漢字が「は」と発音する平仮名のもとになったのだろうか。それは「波」などの中国語の発音が、日本語の「は」の発音に似ているからだろう。……ところがそうはいかなかった。教え子の中国人学生に「波」以下の中国語の発音をさせると、ほとんどが日本語の平仮名の「は」の発音とは違ったのである。正直ショックであった。それでは韓国語ではどうかと思い、韓国語を話す友人に聞いたところ日本語と似たような発音が多いようだ。

こうした妄想は言語学だか国語学の世界では常識的なことなのかもしれない。しかし学会では常識であっても、世間では常識ではない。昨今文部省の文系に対する迫害が著しいが、研究者にもその責任がある。

\* \* \* \* \*

研究者と世間とのズレは歴史のほうが大きいかもしれない。このことは古文書を教えるようになって特に痛切に感じるようになった。いうまでもなく研究者は学会で評価される論文を書こ

うとする。こうした研究の過程で日常的な瑣末な事象は切り捨てられていく。しかし世間は切り捨てられた方に関心をもっているのである。

受講生の関心の高い事柄のひとつが苗字帯刀である。大半の受講生は庶民には苗字がなかったと思っているが、江戸時代は多くの人々が苗字を持っていた。ただ公的には名乗れなかったというだけである。それではいつから名乗れなくなったのかというと、これが曖昧である。あえていうなら苗字を名乗ることを許すという書類が残っているから、許可のないものは名乗れなかったということである。

刀については寛文8年(1668)3月江戸の町人の帯刀が禁止されているが、旅に出るときや火災のときは帯刀が許されている。しかし天和3年(1683)2月には旅や火災であっても帯刀は禁止されている。これら禁令は江戸の町方に出されたもので、全国に出されたものではない。

ここではひとつの事例を示しただけだが、どのようにして決まったのかよくわからないことが、特に江戸時代の前期には多くある。もちろん江戸時代の人々もそのようなことは意識しなかっただろう。曖昧なのである。また俗にいう鎖国にしても当時の庶民にはどのように浸透していたのだろうか。「熊さん大変だ！ 来月から異国へ行けなくなるそうさ」とはならなかっただろう。

さらにまさかという質問を受けたことがある。「先生！江戸幕府の年間予算はどんなものだったのですか？」考えてみれば当然の質問である。江戸時代には現代のように予算を組むなどというようなことはなかった。近代以前は現在とは異なる原理で動いていたのだろう。ここでは感覚的に書いているが、このことを体系的に明らかにしたら大きなことがわるのかもしれない。

よくある質問のもうひとつに、江戸時代の農民・庶民の貧しさはどんなものだったのか、というのがある。しかもその原因が年貢と思っている人がほとんどである。

年貢の研究をしたことはないが、江戸時代の初期ならともかく中後期に、あまりにも理不尽な年貢を徴収していた領主はいなかったのではないか。それでは農民の暮らしが立ち行かないし、農産物を再生産することができなくなってしまふ。

以前高校の社会科の教員から「山本さんは交通史・旅行史の研究をしているけれど、江戸時代に庶民が旅に行くことなどありえないですよ。庶民・農民は領主から徹底的に搾取されているのだから」といわれ絶句したことがある。

歴史観によっては支配される側は過酷な搾取で、貧しく悲惨でなければならないのかもしれないが、そこまで貧しかったら江戸時代に文化なども生まれなかっただろう。芝居・俳句・川柳・

小説類・錦絵等々を見たり、詠んだり、読んだり、眺めたりする余裕などあるはずもない。

「貧しい」という定義は難しいが、江戸時代の史料をこれまでとは少し違った視点からみていくと、貧しくなる原因は病気・災害などを別にすれば、「飲む・打つ・買う」にあったようである。

こういうと大方の受講生は博打や酒・遊女などの面白い話が始まるのかとニヤニヤしますが、博打のやりかた、遊郭の具体的なことはどうでもよいのである。「飲む・打つ・買う」の挙句借金をし、一家の生活が立ち行かなくなるのである。よく娘を売るという話があるが、凶作のときならまだしも、親父が「飲む・打つ・買う」で借金まみれの末の身売りでは泣くに泣けない。余談であるが、凶作云々では筆者が小学校低学年の頃、小商いをしていた我が家へ東北の農民が娘を連れてきて凶作なので娘を買ってくれと玄関で話をしているのを、襖越しに聞いたことがある。子供心にもあまりにも衝撃的だったので未だに忘れられない。もちろん我が家では娘を買わなかったが、何がしかの金を渡したようだった。……詐欺ではなかったと思いたい。

貧富を判断する基準のひとつとして、農民の土地所有の多寡がある。「検地帳」の分析を見ると一村に絶対生活できないだろうという農民がかなりいる場合がある。大学生時代何かの拍子

に紛れ込んだ研究会でこうした発表があったとき、無知な私はこれでは農民が死んでしまう。どうやって生きていたのだろうか。というようなことを口走ったところ、そんなことは今考えなくてもいい。搾取されていたことを…考えろ。みたいなことをいわれた。

その後もどうやって農民が糊口を凌いだのか気になっていたが、筆者の専門分野である交通史を通してその一端が見えてきた。それは物資の輸送に従事し収入を得るということである。

たとえば房総は巨大都市江戸に大量の薪炭類を供給していた。こうした物資の多くは河川や海上を利用して運ばれたが、河岸や湊までは陸送である。田畑の少ないものは物資を背負子に付

けて運べば収入を得ることができるのである。ある地域の「人別帳」を見ると田畑が少ないのに馬を所有していると田畑が少ないのに馬を所有している。荷物を担いで得た収入を「飲む・打つ・買う」に使わず金を貯め、馬を買い、より多くの物資を運んでいたのかもしれない。

古文書講座で教えていると、教えてもらうこともたくさんある。ここには教えてもらったことを脈絡なく書いたが、いずれ脈絡ないことをまとめて一つのものをつくりあげたい。そしてまだ当分の間「教え教えられ」である。

〈表紙写真〉上総国皇陀郡大谷村（現千葉県君津市）の朝生家に伝わる近世の日記より（文久3年5月）

# 新刊ニュース

11・12月の新刊 \*発売予定のものもあります

## 歴史一般

事典／年表・地図／歴史学・補助学

都市史学会編

### 都市史研究 2

B 5判 164頁 3,800円

山川出版社 [11月刊]

978-4-634-52752-2

2013年設立の都市史学会の会誌第2号。論文「伝統と近代の間で」のほか、研究ノート・小特集「都市史の現在Ⅱ」・研究動向など。

大阪大学歴史教育研究会・公益財団法人史学会編

### 教育が開く新しい歴史学

史学会 125周年リレーシンポジウム 1

四六判 240頁 2,000円

山川出版社 [11月刊]

978-4-634-60021-8

史学会 125周年記念シリーズ。歴史教育の危機的現状に対し、改善を系統的に担うことができる研究者、教員の養成には何が必要かを問う。

公益財団法人史学会編

### 災害・環境から戦争を読む

史学会 125周年リレーシンポジウム 3

四六判 244頁 2,000円

山川出版社 [11月刊]

978-4-634-60023-2

史学会 125周年記念シリーズ。自然災害や環境を、歴史のアクターとして登場させ、戦争との関係を問うことで世界を展望する。

九州史学会・公益財団法人史学会編

### 過去を伝える、今を遺す－歴史資料、文化遺産、情報資源は誰のものか

(史学会 125周年リレーシンポジウム 4)

四六判 256頁 2,000円

山川出版社 [11月刊]

978-4-634-60024-9

史学会 125周年記念シリーズ。公共考古学・アーカイブズ学を縦糸、教育と研究を横糸とし、記憶や記録を共有財産として活かす方法を問う。

## 考古学

概論・通史／日本／アジア／ヨーロッパ／アフリカ／アメリカ／その他

滝沢 誠著

### 古墳時代の軍事組織と政治構造

B 5判 280頁 9,000円

同成社 [11月刊]

978-4-88621-704-2

主として甲冑類や小型古墳の分析から軍事組織の形成と政治構造の変化との密接な関係を解明し、列島の国家形成過程の転換点を描出する。

茂木雅博著

### 箱式石棺

B 5判 624頁 20,000円

同成社 [12月刊]

978-4-88621-715-8

弥生・古墳時代に盛行した箱式石棺で存在が明らかかな約340基につき報告書を渉猟。集成表を作製し、その性格と歴史的意義に迫る。

小宮 孟著

### 貝塚調査と動物考古学

(考古学研究調査ハンドブック5)

四六判 136頁 1,500円

同成社 [12月刊]

978-4-88621-714-1

貝塚調査の手法や、分析に有効なサンプリング方法を紹介し、あわせて貝塚から出土する貝殻、魚骨、獣骨の分析ポイントを分かり易く解説する。

笹生 衛著

### 神と死者の考古学

古代のまつりと信仰 (歴史文化ライブラリー 417)

四六判 240頁 1,700円

吉川弘文館 [12月刊]

978-4-642-05817-9

5世紀、神祭りの原形が古墳祭祀と関連し形成された。祭りや古墳との関係、現代の文化・信仰への影響など、新視点から実態に迫る。

小畑弘己著

**タネをまく縄文人**

最新科学が覆す農耕の起源 (歴史文化ライブラリー 416)

四六判 234頁 1,700円

吉川弘文館 [12月刊]

X線写真・CTスキャン・3D画像…。最新技術が検出した土器の中に眠る考古資料「タネ」「ムシ」から、縄文人の食生活を問い直す。

978-4-642-05816-2

青山和夫著

**マヤ文明を知る事典**

四六判 320頁 2,800円

東京堂出版 [11月刊]

最新の研究成果を盛り込み、その「歴史の実像」を詳細に紹介。古代から現代までつづく進行形のマヤ文化を生き生きと描き出す。

978-4-490-10872-9

**日本史**

概論・通史／史料／古代／中世／近世／近代／現代／地方史

松田敬之著

**〈華族爵位〉請願人名辞典**

菊判 928頁 15,000円

吉川弘文館 [11月刊]

貴族階級「華族」、門閥・血縁・偉人の子孫・功績のあった人から華族になれた人、なれなかった人…。爵位請願した約900人を紹介。

978-4-642-01472-4

坂上康俊著

**摂関政治と地方社会**

(日本古代の歴史 5)

四六判 258頁 2,800円

吉川弘文館 [11月刊]

藤原氏は他氏を排斥し権力を掌握する。受領による地方支配など、政治・経済・社会を、東アジアとの交流などの新視点を交えて描く。

978-4-642-06471-2

熊谷公男編

**蝦夷と城柵の時代**

(東北の古代史 3)

四六判 288頁 2,400円

吉川弘文館 [11月刊]

古代国家は蝦夷の地へ進出し、交流と軋轢が生まれた。古代国家の蝦夷支配の変遷や蝦夷の生活文化に迫り、古代東北の転換点を描く。

978-4-642-06489-7

遠藤ゆり子編

**伊達氏と戦国争乱**

(東北の中世史 4)

四六判 254頁 2,400円

吉川弘文館 [12月刊]

伊達氏の登場から奥羽仕置まで、陸奥・出羽の大名・領主らの動向と争乱を描く。居城や領地、民衆の生活まで東北の戦国社会が甦る。

978-4-642-06495-8

寺西貞弘著

**日本史の中の和歌浦**

(瑠璃書 121)

B 6判 208頁 2,000円

瑠璃書房 [11月刊]

聖武天皇の行幸や貴族が訪れ、秀吉が遊覧し、紀州徳川家が東照神君を祀った和歌山県の景勝地＝和歌浦。古代～近世までを見つめ直し、新たな歴史を語る。

978-4-8273-3121-9

上里隆史著

**尚氏と首里城**

人をおく

A 5判 152頁 2,000円

吉川弘文館 [12月刊]

戦乱の沖縄島を統一し「琉球王国」を建国した尚巴志と、王朝を継ぎ王国統治を確固たるものにした尚円。その覇業と王国の盛衰を描く。

978-4-642-06789-8

天野忠幸編

**戦国遺文 三好氏編 第3巻**

A 5判 312頁 17,000円

東京堂出版 [11月刊]

畿内の戦国政治史に大きな役割を果たした三好氏の文書を、編年順に収録。三好氏編最終巻となる本巻には、元亀2年～寛永8年を収録。

978-4-490-30711-5

佐藤博信・滝川恒昭・盛本昌広・黒田基樹編

**戦国遺文 房総編 補遺**

A 5判 320頁 17,000円

東京堂出版 [11月刊]

戦国時代の房総地域に関する文書を編年順に収録。既刊刊行後の新出文書・史料、既刊と本巻の補遺文書の索引を収録。東国の地域研究に有益。

978-4-490-30724-5

奈良文化財研究所編

**俊乗房重源史料集成**

A 5判 592頁 12,000円 吉川弘文館 [11月刊]

平氏に焼かれた東大寺大仏殿復興を担った重源。その生涯と、朝廷・源頼朝らの支援を得ての再建に関わる史料を50年振りに復刊。

978-4-642-01577-6

五味文彦・本郷和人・西田友広編

**現代語訳 吾妻鏡 16**

将軍追放

四六判 176頁 2,400円 吉川弘文館 [11月刊]

北条時頼が没し、嫡男時宗が連署となる。時宗・北条政村・金沢実時は将軍宗尊親王側近の陰謀について密議し、親王は京に送られる。本文編完結。

978-4-642-02723-6

遠藤みどり著

**日本古代の女帝と讓位**

A 5判 296頁 7,000円 塙書房 [12月刊]

皇位継承の特質である女帝と讓位に着目。天皇と共に王権を構成した太上天皇・皇后（三后）・皇太子相互の関連性を分析。日本古代の権力構造を総体的に解明。

978-4-8273-1278-2

田中禎昭著

**日本古代の年齢集団と地域社会**

A 5判 388頁 11,000円 吉川弘文館 [11月刊]

日本史上、地域社会の秩序を維持してきた年齢集団・年齢組織。下総国葛飾郡大嶋郷の戸籍の分析などを通じて国家的編制形態を解明。

978-4-642-04627-5

海野 聡著

**奈良時代建築の造営体制と維持管理**

A 5判 358頁 11,000円 吉川弘文館 [11月刊]

建築史に維持管理という新概念を導入。地方独自の技術の存在と中央の技術との接点を指摘して、従来の古代建築史を捉え直す。

978-4-642-04626-8

長村祥知著

**中世公武関係と承久の乱**

A 5判 346頁 9,000円 吉川弘文館 [11月刊]

武家優位の公武分立体制が確定した画期である承久の乱。新史料を発掘し、京方・鎌倉方の武士と後鳥羽院との関係や歴史像を検討する。

978-4-642-02928-5

苅米一志著

**殺生と往生のあいだ**

中世仏教と民衆生活（歴史文化ライブラリー 414）

四六判 224頁 1,700円 吉川弘文館 [11月刊]

動物を殺し、食べることは罪なのか？ 殺戮をなりわいとする武士の苦悩にも触れ、中世の文化や宗教の特質を「殺生」から考える。

978-4-642-05814-8

日本史史料研究会監修・細川重男編

**鎌倉将軍・執権・連署列伝**

A 5判 272頁 2,500円 吉川弘文館 [11月刊]

将軍と、その補佐・後見役であった執権・連署、35人の人物そのものに焦点を絞り、それぞれの立場での行動や事績を解説する。

978-4-642-08286-0

井原今朝男著

**中世日本の信用経済と徳政令**

A 5判 534頁 12,000円 吉川弘文館 [11月刊]

中世のさまざまな経済現象を信用・債務・投機の視点から検証。貸付取引の広がりを実証的に解明し、徳政令の意義を位置づけ直す。

978-4-642-02927-8

久保健一郎著

**戦国大名の兵糧事情**

（歴史文化ライブラリー 415）

四六判 218頁 1,700円 吉川弘文館 [11月刊]

食糧であり、勝敗を左右する重要物資だった兵糧。調達法や食糧以外の用途など、様々な側面から戦国大名と社会のあり方を捉え直す。

978-4-642-05815-5

夏目琢史著

**近世の地方寺院と地域社会**

遠州井伊谷龍潭寺を中心に

A 5判 416頁 8,000円 同成社 [11月刊]

地方寺院に保管された文書をもとに、彦根藩主井伊氏や住職らの活動を詳細に検証。近世地域社会において寺社が果たした役割を解明する。

978-4-88621-705-9



牧原成征編

**近世の権力と商人**

史学会シンポジウム叢書

A 5判 248頁 4,000円

山川出版社 [11月刊]

2013・14年史学会大会シンポジウムをもとに編集。近世における商人と権力との関係に迫り、近世社会への理解を深める。

978-4-634-52364-7

小林清治著

**伊達騒動と原田甲斐**

(読みなおす日本史)

四六判 198頁 2,200円

吉川弘文館 [11月刊]

歌舞伎「伽羅先代萩」では悪役だが、小説『縦ノ木は残った』では忠臣とされた仙台藩重臣原田甲斐。史料を丹念に読み解き史実に迫る。

978-4-642-06595-5

椎名仙卓著

**明治博物館事始め** (オンデマンド版)

四六判 266頁 4,800円

思文閣出版 [12月刊]

近代化と博覧会ブームを背景に次々と誕生した博物館。「正史」からはこぼれがちなエピソードを通し、明治時代を鮮やかに描く。(初版1989年)

978-4-7842-7002-6

松沢裕作編

**近代日本のヒストリオグラフィ**

史学会シンポジウム叢書

A 5判 256頁 4,000円

山川出版社 [11月刊]

2014年史学会大会シンポジウムをもとに編集。近代日本において「歴史を書く」という営為がどのように行われてきたかを考察する。

978-4-634-52363-0

内山一幸著

**明治期の旧藩主家と社会**

華士族と地方の近代化

A 5判 312頁 11,000円

吉川弘文館 [11月刊]

旧藩領と東京で家政を運営した意義、旧藩主家と立身出世の補完的な社会構造など、旧柳河藩主立花家から近代社会との関係を解明する。

978-4-642-03848-5

久保正明著

**明治国家形成と華族**

A 5判 288頁 8,000円

吉川弘文館 [12月刊]

華族への天皇の意思に着目し、明治国家の「貴族」を作り上げようとする政府と「皇室の藩屏」としての道を模索する華族の動向を解明。

978-4-642-03850-8

小林瑞穂著

**戦間期における日本海軍水路部の研究**

(歴史科学叢書)

A 5判 458頁 12,000円

校倉書房 [12月刊]

海図および水路図誌の作成を担った機関で、海軍だけでなく民間航海者にも供給が行われた。その基本情報に対する認識と課題について考察した。

978-4-7517-4660-8

村山富市、山田 朗、藤田高景編

**検証 安倍談話**

戦後七〇年 村山談話の歴史的意義

四六判 200頁 1,600円

明石書店 [10月刊]

「村山談話」のキーワードのみが「継承」された安倍談話を徹底検証し、安保法制とともに右傾化を強める安倍政権の問題点を指摘する。

978-4-7503-4255-9

**世界史**

概論・通史 / アジア / ヨーロッパ / アフリカ / アメリカ / オセアニア

澤井一彰著

**オスマン朝の食糧危機と穀物供給**

(山川歴史モノグラフ30)

A 5判 312頁 5,000円

山川出版社 [11月刊]

帝国の社会・経済そしてブローデルが留保した東地中海世界の諸問題、とりわけ食糧をめぐる問題の解明をめざした書。

978-4-634-67387-8

メアリー・ルイーザ・ロバーツ著

**兵士とセックス**

第二次世界大戦下のフランスで米兵は何をしたのか?

四六判 436頁 3,200円

明石書店 [9月刊]

フランス解放のためにノルマンディーに乗り込んだ米軍が現地で行った売春、レイプ、人種差別など。いま明かされる知られざる戦争下の真実。

978-4-7503-4234-4

松浦義弘著

## フランス革命とパリの民衆

「世論」から「革命政府」を問いただす

A 5判 468頁 5,800円

山川出版社 [11月刊]

手稿史料を丹念に読み解き、食糧騒擾の時代に起こった二つの事件をとおして、パリの民衆がフランス革命をどう動かしたのかを考える。

978-4-634-67241-3

小林繁子著

## 近世ドイツの魔女裁判

民衆世界と支配権力

A 5判 324頁 6,500円

ミネルヴァ書房 [12月刊]

魔女迫害を可能とした枠組みとは何か。魔女迫害を求める民衆はどのような論理と手段を用いたのか。魔女裁判の実像に迫る一冊。

978-4-623-07469-3

## 文化史

文化史一般／政治・外交・経済／思想・宗教／  
教育・科学／文学・美術・芸術／社会生活

増井金典著

## 名言・格言・ことわざ辞典

A 5判 352頁 3,500円

ミネルヴァ書房 [12月刊]

簡便な解説を添えて、国内外の先人の思いが込められた名言や庶民の知恵が詰まったことわざを約5500語を厳選し紹介する。

978-4-623-07143-2

益田 実・池田 亮・青野利彦・齋藤嘉臣編著

## 冷戦史を問いなおす

「冷戦」と「非冷戦」の境界

A 5判 434頁 7,000円

ミネルヴァ書房 [12月刊]

冷戦終焉から20年以上が経過したが、厳密な検証は未だ不十分である。「冷戦」とは何だったかを、多様な事例の実証分析から解明する。

978-4-623-07470-9

嵯峨井建著

## 神仏習合の歴史と儀礼空間〈オンデマンド版〉

A 5判 428頁 8,600円

思文閣出版 [12月刊]

祭祀・法会の空間である神社・寺院の儀礼空間を視点に論じ、豊富な事例とともに神仏習合の諸形態を丹念にまとめた実証研究。(初版2013年)

978-4-7842-7000-2

山本幸男著

## 奈良朝仏教史攷

A 5判 496頁 11,000円

法蔵館 [11月刊]

正倉院文書、とくに写経関係文書の緻密な整理・検討から、経論疏類の奉請や貸借、学僧の動向などを探り、奈良時代の仏教における華嚴宗の重要性を明らかにした労作。

978-4-8318-6228-0

吉水岳彦著

## 靈芝元照の研究

宋代律僧の浄土教

A 5判 416頁 12,000円

法蔵館 [11月刊]

善導との比較のみで論じられてきた従来像を覆し、戒律と浄土教双方にわたる元照独自の思想と信仰の内実を徹底検証。宋代浄土教の思想背景、浄土教諸師との関連も明らかにする。

978-4-8318-7360-6

大澤広嗣著

## 戦時下の日本仏教と南方地域

A 5判 404頁 4,800円

法蔵館 [11月刊]

戦時下における日本の南方進攻を主題に、戦争を進めた政府と仏教界の協働関係の実態を当時の資料から解明する。近代日本仏教研究の間隙を埋めた意欲的論集！

978-4-8318-5542-8

真宗史料刊行会編

## 大系真宗史料 文書記録編 16

近世異義争論

A 5判 520頁 12,000円

法蔵館 [12月刊]

近世の東西本願寺における争論関係の史料を集成。西派＝肥後月感騒動記、明和法論次第、二十二箇条濫觴記ほか。東派＝任誓一持留、小松日記、秘乱双紙、能登頓成公裁書ほか。

978-4-8318-5075-1

塩澤寛樹著

## 仏師たちの南都復興

鎌倉時代彫刻史を見なおす

A 5判 270頁 3,800円

吉川弘文館 [12月刊]

平氏により灰燼に帰した南都はいかにして復興したのか。朝廷・摂関家・幕府・寺家の活動を解明し、復興造像と仏師たちの関連性を探る。

978-4-642-01652-0

中島医家資料館・中島文書研究会編著

**備前岡山の在村医 中島家の歴史**

B 5判 320頁 10,000円 思文閣出版 [11月刊]

江戸中期より続く在村医家に残る書籍・古文書・器物類を通して、当家歴代の歴史、研究論文9篇、史料5篇、蔵書目録および年表を収める。

978-4-7842-1826-4

坂口英伸著

**モニュメントの20世紀**

タイムカプセルが伝える〈記録〉と〈記憶〉 (シリーズ近代美術のゆくえ)

A 5判 284頁 4,500円 吉川弘文館 [11月刊]

記録の保存、記憶の伝達…。紀元二千六百年と万国博覧会を契機に日米を席卷した未来へ記念碑、タイムカプセルの全貌を探る。

978-4-642-03846-1

谷彌兵衛著

**近世吉野林業史 (オンデマンド版)**

A 5判 538頁 11,100円 思文閣出版 [12月刊]

吉野林業の光と影を史料に基づき実証的に明かす。吉野林業とそれに携わる人々を間近に見てきた著者による、吉野林業通史。(初版2008年)

978-4-7842-7001-9

木宮泰彦著

**日本古印刷文化史 (新装版)**

A 5判 828頁 12,000円 吉川弘文館 [12月刊]

奈良時代の創始期から江戸時代の活字版興隆期まで850年の印刷文化を、近隣諸国との文化交流も絡ませて系統的に叙述した稀覯書。

978-4-642-01653-7

常光 徹・監修/中谷 靖・絵

**乗りものと都市伝説**

みたい! しりたい! しらべたい! 日本の都市伝説絵図鑑③

A B判 32頁 2,800円 ミネルヴァ書房 [11月刊]

乗りものにつつまれる怪しい話、こわい話をイラストや資料とともにわかりやすく解説する。子どもも大人も一緒に楽しく学べます。

978-4-623-07474-7

崔 銀姫著

**日本のテレビドキュメンタリーの歴史社会学**

明石ライブラリー 160

四六判 272頁 4,000円 明石書店 [11月刊]

日本初のテレビドキュメンタリー『日本の素顔』の歴史的・社会的な背景をラジオと映画の連続性と非連続性から探り、放送史に果たした意義を考察。

978-4-7503-4264-1

小林慧子著

**あるハンセン病キリスト者の生涯と祈り**

北島青葉『神の国をめざして』が語る世界

四六判 240頁 1,900円 同成社 [11月刊]

若くしてハンセン病を発症し76年の生涯を療養所で生きたキリスト者の綴った幾多の作品からその思いと隔離の実態に迫る。

978-4-88621-716-5

**地 理**

足利健亮著

**地理から見た信長・秀吉・家康の戦略**

(読みなおす日本史)

四六判 230頁 2,200円 吉川弘文館 [12月刊]

安土城と琵琶湖、聚楽第・お土居と伏見城、江戸城と富士見坂…。彼らはなぜその地を選んだのか。建設に秘められたたくらみを読み解く。

978-4-642-06596-2

※表示価格はすべて本体価格です。

雑誌

日本歴史

日本歴史学会編集

12月号（第811）＝11月刊  
2016年1月号（第812）＝12月刊

日本史専門の月刊誌として、また最も親しみやすい歴史知識の普及誌として、研究者から一般社会人まで、幅広い各層が購読。

一年間直接購読料 8,300円〔税・送料込〕

◆各種割引制度有

二年間前払い 16,000円〔税・送料込〕

三年間前払い 23,500円〔税・送料込〕

学生・院生 一年間 5,000円〔税・送料込〕

A5判 12月号＝130頁、1月号＝162頁

12月号＝741円、1月号＝972円

吉川弘文館〔11・12月刊〕

※表示価格はすべて本体価格です。

# 歴史書以外の 人文社会図書新刊案内

2015.11・12

## 明石書店

- マリを知るための58章(エリア・スタディーズ138) 竹沢尚一郎著……………四六判 2,000円 11月
- 世界の原発産業と日本の原発輸出 中野洋一著……………四六判 3,400円 11月
- ASEANを知るための50章(エリア・スタディーズ140) 金子芳樹・黒柳米司・吉野文雄編著  
……………四六判 2,000円 11月
- ラトヴィアを知るための60章(エリア・スタディーズ139) 志摩園子編……………四六判 2,000円 11月

## 思文閣出版

- 和食とは何か(和食文化ブックレット①) 熊倉功夫・江原絢子著/和食文化国民会議監修…A5判 900円 11月

## 法蔵館

- 新・梵字大鑑 全2巻 種智院大学密教学会編……………B5判 40,000円 12月
- 他力信心を実感するための法話 和田真雄著……………四六判 1,000円 12月

## ミネルヴァ書房

- いま問われる農業戦略 規制・TPP・海外展開  
長命洋佑・川崎昭訓・長谷 祐・小田滋晃・吉田 誠・坂上 隆・岡本重明・清水三雄・清水俊英著…四六判 3,200円 11月
- 原生自然とアメリカ人の精神 ロデリック・F・ナッシュ著/松野 弘監訳……………A5判 5,800円 12月
- 東アジアのスポーツ・ナショナリズム 国家戦略としての有効性と国際協調の展望  
土佐昌樹編著……………四六判 3,500円 12月
- せまりくる「天災」とどう向きあうか 鎌田浩毅編著……………B5判 1,800円 12月
- 18歳からの社会保障読本 小塩隆士著……………四六判 2,500円 12月
- グローバル化時代の日本都市理論 鈴木栄太郎『都市社会学原理』を読み直す  
大谷信介・笹森秀雄・山下祐介編著……………A5判 3,000円 12月
- 子どもの遊び場のリスクマネジメント 遊具の事故低減と安全管理 松野敬子著……………A5判 3,000円 12月
- 農業への企業参入 新たな挑戦 農業ビジネスの先進事例と技術革新  
石田一喜・吉田誠・松尾雅彦・吉原佐也香・高辻正基・中村謙治・辻 昭久著……………四六判 3,200円 12月
- 新々貿易理論とは何か 企業の異質性と21世紀の国際経済 田中鮎夢著……………A5判 4,000円 12月
- 越境者たちのユーラシア 山根 聡・長縄宣博編著……………A5判 4,500円 12月

# 会員社刊行の2015年受賞図書

## 【第1回 日本島嶼学会研究奨励賞】

自己決定権をめぐる政治学 高橋美野梨著……………A5判 7,000円 明石書店  
島嶼研究に功績があり、今後、島嶼学と本学会をリードすることが期待される若手研究者に授与される賞。

## 【第4回（2014年度）地域研究コンソーシアム賞】

自己決定権をめぐる政治学 高橋美野梨著……………A5判 7,000円 明石書店  
国家や地域を横断する学際的な地域研究を推し、地域研究関連諸組織を連携する研究実施・支援体制の構築に貢献した研究者に授与される賞。

## 【第18回 文化庁メディア芸術祭、マンガ部門・優秀賞】

チャイニーズ・ライフ（上巻）「父の時代」から「党の時代」へ  
チャイニーズ・ライフ（下巻）「党の時代」から「金の時代」へ  
李 昆武、フィリップ・オティエ著……………B5判変型 各1,800円 明石書店  
メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的に、クリエイターが推薦する賞。

## 【2015年度 日本社会福祉学会学会賞】

中国農村地域における高齢者福祉サービス 郭 芳著……………A5判 4,500円 明石書店  
社会福祉研究の一層の発展を図るため、学会員のうちで顕著な研究業績をあげた者の顕彰および若手研究者の研究奨励を目的とする賞。

## 【第25回 茶道文化学術奨励賞】

西鶴の文芸と茶の湯 石塚 修著……………A5判 6,000円 思文閣出版  
公益財団法人 三徳庵（大日本茶道学会）主催。茶道文化研究に大きな貢献をしたと認められる著作・論文に対して授与する。

## 【第10回 林屋辰三郎藝能史研究奨励賞】

中世後期の香文化 本間洋子著……………A5判 8,200円 思文閣出版  
藝能史研究会主催。若手研究者の育成と奨励を目的とし、同時に優れた業績を上げた研究者を表彰する。

## 【第20回 日本比較文学会賞】

日中演劇交流の諸相 陳 凌 虹著……………A5判 8,000円 思文閣出版  
日本比較文学会会員の著書を対象に、比較文学・比較文化に関する最優秀の研究書に贈呈される。

## 【第5回 日本考古学協会賞奨励賞】

墓の社会的機能の考古学 青野友哉著……………B5判 9,000円 同成社  
日本考古学協会が、考古学研究の活性化並びに考古学の啓発と普及、人材の育成、社会貢献の増大などを目的に考古学上の業績、及び関連諸分野における考古学関係の業績を賞するためのもの。

## 【第52回 日本翻訳文化賞 佳作】

考古学的思考の歴史 ブルース G. トリッガー著／下垣仁志訳…B5判 12,000円 同成社  
日本翻訳家協会が創立10周年の1963年に創設。毎年、過去1年で最も優れた翻訳書を刊行した翻訳者に対し贈る賞。

## 【第4回 池田亀鑑賞】

菅原道真論 滝川幸司著……………A5判 22,000円 塙書房  
平安文学の研究基盤を形成する上で、顕著な功績のあった研究に対して贈る。その地道な努力を顕彰し、さらなる成果の進展を期待する意味を込めている。

## 【第9回 野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞】

近世出版の板木研究 金子貴昭著……………A5判 7,500円 法蔵館  
『アート・ドキュメンテーション研究』、『アート・ドキュメンテーション通信』、その他の雑誌に掲載の論文・記事、図書、データベース、展覧会、ウェブサイトのなかから優れたものを選出。

## 【平成26年度 浄土宗学術賞】

漢語仏典における偈の研究 齊藤隆信著……………A5判 15,000円 法蔵館  
浄土宗の教学振興への多大なる貢献があったとして、優れた学術書の執筆者に対して贈られる「浄土宗学術賞」。

## 【第16回(2015年度) 読売・吉野作造賞】

日韓歴史認識問題とは何か 木村 幹著……………四六判 2,800円 ミネルヴァ書房  
政治・経済・社会・歴史・文化の各分野における優れた論文、および単行本を顕彰することを目的とする。

## 【第27回(2014年度) 和辻哲郎文化賞 一般部門】

有島武郎 亀井俊介著……………四六判 3,200円 ミネルヴァ書房  
和辻哲学の今日的意義を国の内外にわたって探るとともに、研究者の育成かつ市民の文化水準の向上に資するために設けられた。(一般部門)は、文化一般におけるすぐれた著作に贈られる。

## 【2014年度 日本ドイツ学会奨励賞】

ヴァイマル共和国のヨーロッパ統合構想 北村 厚著  
……………A5判 6,000円 ミネルヴァ書房  
ドイツ語圏に関する「将来性に富む優れた研究業績を顕彰」し、「ドイツ語圏に関する学際的学術研究の発展に資することを目的」として制定。

## 【第29回(平成26年度) 冲永賞】

スウェーデンの賃金決定システム 西村 純著……………A5判 6,500円 ミネルヴァ書房  
労働問題研究の振興に貢献することを主な目的として、労働問題に関する調査研究のうち、社会的に有意義で発展性のあるものに対して個人研究、共同研究のいかんを問わず、優れた論文・著書に対して贈られる。

## 【平成 27 年度(第 24 回) 日本地域学会 学会賞 [著作賞]】

先端産業クラスターによる地域活性化 田中利彦著…A 5 判 3,200 円 ミネルヴァ書房  
地域学(regional Science)の発展に資するため、地域学の発展に著しく寄与し、その意義や貢献が多である著作物を表彰する。

## 【第 21 回(2014 年) 社会政策学会奨励賞】

地方自治体の福祉ガバナンス 朴 姫淑著……………A 5 判 7,000 円 ミネルヴァ書房  
会員の社会政策に関する研究の発展に資するため、優れた研究業績を発表した会員を表彰する。

## 【2015 年度日本社会福祉学会 学会賞学術賞(著書部門)】

福祉哲学の継承と再生 中村 剛著……………A 5 判 8,000 円 ミネルヴァ書房  
社会福祉研究の一層の発展を図るため、学会員のうちで顕著な研究業績をあげた者の顕彰および若手研究者の研究奨励を目的とする。

## 【第 9 回 日本都市社会学会賞(磯村記念賞)】

再魔術化する都市の社会学 園部雅久著……………A 5 判 5,500 円 ミネルヴァ書房  
原則として日本都市社会学会個人会員の著作を対象とし、都市社会学研究において独創的、画期的な意義を有する、または永年にわたる蓄積の成果が、わが国都市社会学研究に大きな貢献をもたらしているものであることなどの要件を満たしているものに贈られる。

## 【第 14 回 島田謹二記念学藝賞】

宮沢賢治 千葉一幹著……………四六判 3,000 円 ミネルヴァ書房  
「比較文学比較文化」の呼名に適合する分野での、且つ原則として 50 歳までの所謂中堅・若手研究者の手になる、堅実な学問的業績に対し、奨励の意味を籠めて贈呈される。

## 【第 27 回 ミュージック・ペンクラブ音楽賞 クラシック部門 [研究・評論部門賞]】

山田耕作 後藤暢子著……………四六判 3,800 円 ミネルヴァ書房  
音楽に専門的にかかわる書き手自身が自主的に運営する団体が制定している音楽賞。受賞対象はその年に公開または発表された音楽界の全プロダクツやイベントであり、音楽家、企画者、著者、制作メディアの担当者をはじめとする当事者に贈られる。

## 【平成 27 年 日本写真協会賞学芸賞】

〈報道写真〉と戦争 1930-1960 白山真理著……………四六判 4,800 円 吉川弘文館  
日本国内で、優れた写真評論・写真研究などを発表し、広く一般に上梓して写真界に多大な影響を及ぼした個人または団体に贈られる。

## 【第 30 回(2015 年度) 女性史青山なを賞】

古代の女性官僚 一女官の出世・結婚・引退一 伊集院葉子著…四六判 1,800 円 吉川弘文館  
女性学の視点に立脚する優れた女性史の業績に対して毎年贈られる。

## 【第 37 回 角川源義賞 [歴史研究部門]】

近世の朝廷と宗教 高埜利彦著……………A 5 判 11,000 円 吉川弘文館  
日本文学ならびに歴史の分野における卓越した研究成果を対象に顕彰。民間における最も優れた学術賞として、きわめて高い評価を得ている。



【第3回 古代歴史文化賞 優秀作品賞】

東国から読み解く古墳時代 若狭 徹著……………四六判 1,700円 吉川弘文館  
古代歴史文化の学問的基礎が踏まえられつつも、一般読者にとって読みやすい書籍のうち最も優れたものを表彰する。

# 2015年歴史書懇話会研修旅行記

福岡・長崎

深谷 直樹

(明石書店)

今から70年前、アジア太平洋地域を戦場とした、日本と連合国との未曾有の大戦争に終止符が打たれた。多くのメディアでも伝えられているとおり、今年は歴史を振り返る上で一つの節目となる年である。「すぐれた歴史書の普及とその販売を積極的に推進する」ことを理念に掲げる歴史書懇話会としても、非常に意味のある年であることは間違いない。

そんな今年の歴史書懇話会の研修旅行の訪問地は、福岡・長崎に決まった。常日頃からフェアや常備でお世話になっている書店様を多く抱える福岡、忘れられない原爆の悲劇を体験した長崎を訪れることに対して異論はなかった。もちろん今年は戦争関連の話題だけではなく、「軍艦島」をはじめ長崎の産業革命遺産が世界遺産に登録されたことで、街が大いに活気づいた年でもある。私たちはそのような状況を踏まえつつ、2泊3日の行程をスタートさせた。

まず、初日は福岡に入った。集合場所は九州大学生協文系書籍店様。田原店長は普段どおりの気さくな対応で我々を出迎えていただいた。店内には

会員社の専門書が多く揃えられている。採用品の発注が減り、全体的な売上はやや厳しくなっているというお話ではあるが、しっかりと専門書を販売していただける貴重な店舗である。新刊の発注は基本的に田原店長が担当されており、各社のしかるべき新刊も抜けなく並んでいた。

その後、博多駅まで移動し、駅ビル「アミュプラザ博多」内の丸善博多店様、バスターミナル6Fの紀伊國屋書店福岡本店様を訪問。両店舗とも駅からのアクセスが非常に良く、品揃えを含め地域の主力書店としての存在感を遺憾なく発揮していた。普段、頻繁に福岡まで足を運ぶことができる会員社は多くないが、専門書をしっかりと販売していただいている両店舗には、棚のメンテナンスや提案を含め密な連絡を取り続けていく必要性を感じた。

続いて天神方面へと移動し、ジュンク堂書店福岡本店様を訪問。那覇店から戻った細井店長をはじめ、人文担当の臼井様や上杉様に久々に会うことができた会員社からは、自然と笑みがこぼれていた。国内最大級の売り場面積と140万冊の在庫数を誇る超大型店だ

けあって、各社、新刊や売れ筋のご案内、常備の件と様々な話題に事欠かなかった。

その後、歩いて書齋り一ぶる様へと移動。店内には独自の視点から選んだ多彩な本が並べられ、非常に興味深かった。歴史書に関しては、他店では目にすることができない郷土関連書を多く取り揃えており、大いに充実感があった。特集棚やイベントスペースも設けており、飽きることない創造的な空間として機能していた。センスの良いセレクトショップとして福岡市民に愛されている書店なのだと感じた。

この日の夜は中洲のホテルにて、福岡市近郊の書店様、大学生協様、販売会社様、計16名の皆様と歴懇会員社10名で懇親会がおこなわれた。お酒も入り、普段とはまた違った雰囲気の中、ざっくばらんな意見交換で盛り上がった。最近なにかと流行りものに関連した書籍がよく売れており、刀や相撲や古墳など歴史と関連深いものも

非常に多いという話題が出た。いずれも、熱心な女性ファンがブームを後押ししており、いかにして女性の関心を引くコンテンツを発見し、魅力的にアピールできるかが売上を伸ばす重要なカギであるというお話も伺えた。中締め後、二次会から三次会まで、博多の夜が更けることはなかった。

翌日は朝から福岡市博物館を見学。特別展では「大関ヶ原展」が開催中であった。早い時間にもかかわらず、見学前に学芸課主査の堀本一繁先生から詳細な解説をしていただいた。「天下分け目」の関ヶ原合戦において、西軍の主力部隊を撃破し、毛利軍の不戦や小早川秀秋の寝返りを実現させた黒田長政。その調略に関して当時の背景を生々しくレクチャーしていただき、いかに緻密な駆け引きがなされていたのかということを実感できた。そうした解説のおかげで、その後の展示も興味深く鑑賞し、理解を深めることができた。



福岡市博物館にて

午後から長崎への移動となった。長崎駅は地元出身の福山雅治の凱旋ライブを記念するポスターや横断幕で埋め尽くされていた。長崎が生んだ超大型アーティストに対する郷土愛を私たちは肌で感じた。

長崎での最初の訪問先は、駅直結のメトロ書店本店様。こちらの店舗では、スタッフの一人である川崎常務が「読書アドバイザー」として読者個々のニーズに合った本を紹介するという非常に斬新なコーナーを設けていた。本の知識が豊富で地元でも顔なじみの川崎常務だからこそ可能なお仕事だと思われた。常連のお客様に声を掛け、屈託なくコミュニケーションを取られている姿が印象深かった。

その後、歩いて紀伊國屋書店長崎店様まで移動。店内は万遍なく明るく、清潔感が保たれていた。ショッピングセンター内に店舗を構えることから、お客様の中心はファミリー層であり、書籍の売れ筋はやはり学参、実用書が中心だという。専門書の扱いは年々厳しくなっているが、歴史書には力を入れたいとのことだったので、我々も積極的に協力していかなくてはならないと感じた。郷土関連書の棚は地元出版社の出版物はもちろん、自治体史や独自仕入れと思われるグッズなども充実し、地域に根ざした品揃えを積極的におこなっている印象を受けた。

この日の最後は、明治39年創業という歴史を誇る好文堂書店様を訪問。

決して広い面積を持つ店舗ではないものの、本のソムリエがつくった「おすすめ本」コーナーを設けたり、イベントコーナーを活用し積極的に催し物を開いたり、何度でも足を運びたくなるようなお店づくりに励んでいた。好景気だった時代に比べると店売の売上は低迷しているというが、外商部が地域の人々と広く関係性を保ち、堅実に売上を立てている。その後、外商部の方々にご挨拶と自社商品のPRをさせていただき、今後の販促をお願いした。

2日目の行程を終えた私たちは、稲佐山の中腹に建つ温泉旅館に宿泊し、終日の疲れを癒した。

最終日は観光をメインとした研修で、長崎市原爆資料館、大浦天主堂・グラバー園、長崎造船所史料館を見学した。開国から産業都市への成長、戦国期から続くキリシタンの祈り、原爆の惨禍と戦後の復興まで、長崎の歴史を振り返りながら、研修旅行の全行程を終えた。

今回訪問させていただいた書店様にご回答いただいたアンケートによると、やはり今年には戦後70年に関連したフェアを企画する店舗が非常に多かった。それは、書店員様とのお話のなかでも度々出てくるキーワードであった。私たちは、こうして現地の書店様からいただいた貴重なご意見やご提案、また、実際に史料館等を訪れて考えたことを、今後の歴史書懇話会の活動に取り込んでいくべきだと感じた。

◆早いもので、年の瀬まで20日余りになります。

今年も私たち歴史書懇話会は、月代わりで「歴史書懇話会・今月のオススメ」の連続ミニフェアを下記の10書店で開催してまいりました(かっこの数字はフェア開始の日付)。

◇天童市 TENDO 八文字屋 (2006年7月～) / ◇新潟紀伊國屋書店新潟店 (2007年8月～)  
 ◇松江市今井書店グループセンター店 (2008年6月～) / ◇新宿区芳林堂書店高田馬場店 (2010年4月～)  
 ◇大阪市喜久屋書店阿倍野店 (2013年11月～) / ◇紀伊國屋書店グランフロント大阪店 (2013年11月～) / ◇大阪市ジュンク堂書店上本町店 (2013年11月～) / ◇神戸市ジュンク堂書店三宮駅前店 (2014年6月～) / ◇出雲市今井書店出雲店 (2014年7月～) / ◇名古屋ジュンク堂書店名古屋ロフト店 (2015年6月～)。

10書店の皆さま、1年間ありがとうございました。来年もよろしく願い致します。

◆今年には太平洋戦争敗戦から70年の節目の年でした。さらに、「安保法案」の国会審議をめぐる、戦争を知らない世代も共に、新たに戦争について考える年にもなりました。その安保法案採決から1か月、10月17日深夜のETV特集(再放送)で「むのたけじ 100歳の不屈一伝説のジャーナリスト、次世代への遺書」を視ました。

戦前戦中『朝日新聞』の記者だったむのは、敗戦時「大本営発表のウソを書き続けた責任」をとって朝日を退社、「戦争を絶滅させる」ために戦後70年間を闘いぬきました。故郷秋田で30年間続けた地方紙「たいまつ」をご存知の方もいらっしゃるでしょう。100歳を迎えた今年、むのは「安保法案」廃案を訴えて全国を巡りました。小さな集会でむのの言葉に耳をかたむける若い世代を「死に物狂いでやれば必ず出来るものだ」と激励するその目は実に優しく、次の世代がむのを受け継いでゆく事を信じる笑顔でした。むのは言います。「戦争をやめさせようと思ったら、始まる前に力を尽くして始めさせない。それしか手はない。始まってしまえば、もうどうにもならない」。

◆この言葉は、ナチズムに抵抗したルター派牧師マルティン・ニーメラーの「端緒に抵抗せよ…而して結末を考えよ」を思い出させてくれました。それは学生の頃に、丸山眞男「現代における人間と政治」を読んだ時に知ることが出来ました(『増補版 現代政治の思想と行動』所収)。「ナチが共産主義者を襲ったとき…」から始まる詩が引用されていて、ナチズムの最初の兆候「共産主義者が襲われた時に」、攻撃されているのは自分たちではないと、目をつぶって抵抗しなかったことがナチズムを台頭させる結果を招いたという、ドイツ国民の悔恨について教えてくれるものでした。

◆さて、今日は12月8日、昭和16(1941)年のこの日、日本は真珠湾を急襲、日米開戦の日です。1週間ほど前、『日経』(12.2)文化欄にこんな記事を見つけました。「サラエボから遠く離れた日本だが、戦争が終わった時に学校を作ってくれたのは日本だった。それがどんなにありがたかったか。その国で自分の本が出版されたことを心からうれしく思う。願わくば、日本は学校を壊すのではなく建て直す側にこれからもいてほしい。」ボスニア紛争時に子供だった、サラエボ生まれの作家ヤスミンコ・ハリロビッチの言葉です。

このように期待されている日本人であることを、私は誇りにしたいと思ったことでした。

◆今の世界を覆っている戦争の危機感、かつて日本が体験した戦争とはずいぶん姿は異なっています。けれど、沢山の歴史書から過去を学ぶことが出来るはずの私たちは、二度と戦争を繰り返さないために、今年100歳のむのたけじさんの教え「始まる前に力を尽くして始めさせない」事を忘れずに、新しい年を迎えたいと念じています。

どうか良いお年をお迎えください。

(FN)

# 歴史書懇話会とは

1968年6月に歴史書を刊行する有志出版社7社で結成され、現在11社が加盟しています。結成以来40年余「すぐれた歴史書の普及とその販売を積極的に推進する。本会はその目標達成のため、会員相互の協力によって必要な研究ならびに事業を行う」(会規約)の精神に基づき活動しています。

## 〈歴史書懇話会〉の主な事業

### ◆「歴史書通信」(隔月刊)最新の歴史書情報を提供しています!

会員各社の新刊・重版情報、誌上フェア、書店情報を掲載する出版情報誌。歴史関連のエッセイなども掲載し、歴史知識の普及をはかっています。ご購入を希望される方は最寄の書店を通して、事務局までお申込み下さい。

### ◆「歴史書ベストフェア」小規模書店にも本格派の歴史書を!

全国約120書店で会員社の歴史書80冊余を1年間展示販売しています。選択セットを加え、最大規模は190冊のセットとなります。出品リスト及び販売店一覧は「歴史書通信」5月号に掲載します。

### ◆「特設店」全国に20拠点、専門書の充実した品揃えが魅力です!

特設店を設けて、歴史専門図書の店頭展開をはかっています。現在、全国主要都市に20店の特設店があり、一般書店では展示販売できない歴史専門書の店頭販売に協力をお願いします。特設店では多くの新刊・常備品を揃えとともに、テーマフェア、各社フェアを随時開催しています。

### ◆「歴懇リバイバル」毎年秋の復刊書フェアとしてご好評いただいています。

毎年5月に統一復刊・重版事業「歴懇リバイバル」を実施しています。一社では困難な専門書の復刊・重版を共同で行う活動です。読者から要望の多い名著や基本図書を復刊し、特設店を中心に毎年100店近い書店・大学生協で店頭フェアを展開しています。

### ◆「ホームページ」&「メール通信」による情報発信

当会のホームページでは、新聞書評階報、歴史書の検索、書店フェアや各社の新刊案内、特設店とのリンク、歴史書懇話会からメール通信を配信するメールアドレス登録の受付、「歴史書通信」PDF版などを掲載しています。メール配信のお申込みは<http://www.hozokan.co.jp/rekikon/>からお願いします。

〈会員社〉明石書店・校倉書房・思文閣出版・東京堂出版・刀水書房・同成社・塙書房・法蔵館・ミネルヴァ書房・山川出版社・吉川弘文館

## 歴史書懇話会特設店

- |                  |  |
|------------------|--|
| 岩瀬書店 富久山店        | 〒 963-8051 郡山市富久山町八山田字大森新田 36-1<br>☎ 024-936-2220                  |
| 煥乎堂 本店           | 〒 371-0023 前橋市本町 1-2-13<br>☎ 027-235-8111                          |
| 須原屋 本店           | 〒 336-0062 さいたま市浦和区仲町 2-3-20<br>☎ 048-822-5321                     |
| 岩波ブックセンター信山社     | 〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-3<br>☎ 03-3263-6601                      |
| 東京堂書店 神田神保町店     | 〒 101-3051 千代田区神田神保町 1-17<br>☎ 03-3291-5181                        |
| 芳林堂書店 高田馬場店      | 〒 169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-26-5 F I ビル<br>☎ 03-3208-0241              |
| ジュンク堂書店 池袋本店     | 〒 171-0022 東京都豊島区南池袋 2-15-5<br>☎ 03-5956-6111                      |
| 有隣堂 本店           | 〒 231-0045 横浜市中区伊勢佐木町 1-4-1<br>☎ 045-261-1231                      |
| Books なかだ 本店     | 〒 939-8212 富山市掛尾町 180-1<br>☎ 076-492-1192                          |
| うつのみや 柿木畠本店      | 〒 920-0962 金沢市広坂 1-1-30<br>☎ 076-234-8111                          |
| 平安堂 長野店          | 〒 380-0825 長野市末広町 1355-5<br>☎ 026-224-4550                         |
| 精文館書店 本店         | 〒 440-8517 豊橋市広小路 1-6<br>☎ 0532-54-2345                            |
| ちくさ正文館 本店        | 〒 464-0075 名古屋市中種区内山 3-28-1<br>☎ 052-741-1137                      |
| ジュンク堂書店 京都店      | 〒 600-8005 京都市下京区四条富小路角<br>☎ 075-252-0101                          |
| ジュンク堂書店 大阪本店     | 〒 530-0003 大阪市北区堂島 1-6-20 堂島アバンザ 1～3F<br>☎ 06-4799-1090            |
| ジュンク堂書店 千日前店     | 〒 542-0075 大阪市中央区難波千日前 12-7<br>Y. E. S. NAMBA ビル<br>☎ 06-6635-5330 |
| ジュンク堂書店 三宮店      | 〒 650-0021 神戸市中央区三宮町 1-6-18<br>☎ 078-392-1001                      |
| フタバ図書 TERA 広島府中店 | 〒 735-8588 広島県安芸郡府中町大須 2-1-1<br>ダイヤモンドシティ・ソレイユ<br>☎ 082-561-0770   |
| りーぶる 天神          | 〒 810-0001 福岡市中央区天神 4-1-18 サンビル 1F<br>☎ 092-713-1001               |
| ジュンク堂書店 福岡店      | 〒 810-0001 福岡市中央区天神 1-10-13 天神MMTビル<br>☎ 092-738-3322              |

2015年12月現在

歴史書懇話会ホームページ

<http://www.hozokan.co.jp/rekikon/>

歴史書懇話会会員社ホームページ

明石書店	<a href="http://www.akashi.co.jp/">http://www.akashi.co.jp/</a>
校倉書房	<a href="http://www.azekurashobo.com/">http://www.azekurashobo.com/</a>
思文閣出版	<a href="http://www.shibunkaku.co.jp/">http://www.shibunkaku.co.jp/</a>
東京堂出版	<a href="http://www.tokyodoshuppan.com/">http://www.tokyodoshuppan.com/</a>
刀水書房	<a href="http://www.tousuishobou.com/">http://www.tousuishobou.com/</a>
同成社	<a href="http://homepage3.nifty.com/douseisha/">http://homepage3.nifty.com/douseisha/</a>
塙書房	<a href="http://www.hanawashobo.co.jp/">http://www.hanawashobo.co.jp/</a>
法藏館	<a href="http://www.hozokan.co.jp/">http://www.hozokan.co.jp/</a>
ミネルヴァ書房	<a href="http://www.minervashobo.co.jp/">http://www.minervashobo.co.jp/</a>
山川出版社	<a href="http://www.yamakawa.co.jp/">http://www.yamakawa.co.jp/</a>
吉川弘文館	<a href="http://www.yoshikawa-k.co.jp/">http://www.yoshikawa-k.co.jp/</a>



戦争を繰り返さないために戦争を知る

実物を再現した復刻版だからこそ実感できる  
等身大の「兵隊」の姿。

戦後七〇年を経た今だからこそ、  
国内でなく戦地で五年間も続き  
三九巻が刊行された意味を  
究める事ができるのではないか？

# 復刻雑誌 「兵隊」



四六倍判・全三六巻・一九四二頁、  
全本四冊・上製・箱入）  
¥三〇、〇〇〇／「補遺」三巻合本並製 ¥三、〇〇〇

◆刊行時推薦者

木村尚三郎／小沢昭一／鶴見俊輔／石田一郎

日中戦争のさなか、中国の広東で南支派遣軍報道部  
が刊行し検閲もなく、自由に編集執筆されたという兵  
隊の投稿雑誌。初代編集長は火野葦平。昭和十四年五  
月から十九年五月までの五年間続いた全三九巻。国内  
には殆ど無かった原本を（全国の図書館で確認できたのは39  
巻の内、僅か3巻。弊社創業者桑原が二〇〇年かけて集め、  
二〇〇四年夏、全巻の復刻を実現した

……「兵隊」が提供する情報は、大東亜戦争下の文学の  
みならず、大衆娯楽をはじめ、中国社会にかかわる記録  
庫として、多くの研究素材を用意している。それらの諸  
記録は、兵隊の目線がとらえたものだけに、民衆生活を  
識るフィールド・ノートたる趣がある

（解題）（大濱徹也）より

刀水歴史全書で戦争を考える

四六判・平均300頁

- 44 ナチスの陰の子ども時代 あるユタヤ系ドイツ詩人の回想  
E・フリート著／柴崎雅子訳 ¥2800
- 47 日本人と戦争 歴史としての戦争体験  
大濱徹也著 ¥2400
- 51 沖繩の反戦ばあちゃん 松田カメ口述生活史  
平松幸三編 ¥2000
- 54 戦争と人間の歴史 人間はなぜ戦争をするのか？  
J・キーガン著／井上堯裕訳 ¥2000
- 61 敵国日本 太平洋戦争時、アメリカは日本をどう見たか？  
H・バイアス著／内山秀夫他訳 ¥2000
- 64 庶民のみた日清・日露戦争 帝国への歩み  
大濱徹也著 ¥2200
- 69 昭和帝国の暗殺政治 テロとクーデタの時代  
H・バイアス著／内山秀夫訳 ¥2500
- 70 祖国のために死ぬ自由 徴兵拒否の日系アメリカ人たち  
E・L・ミューラー著／飯野正子監訳 ¥3000
- 74 太平洋戦争にいたる道 あるアメリカ人記者の見た日本  
W・フライシャー著／内山秀夫訳 ¥2800
- 75 ベトナム戦争のアメリカ もう一つのアメリカ史  
白井洋子著 ¥2500
- 77 敗北しつつある大日本帝国 日本敗戦7ヶ月前の  
英国王立国際問題研究所／坂井達朗訳 ¥2700
- 89 ある反戦ベトナム帰還兵の回想  
W・D・エアハート著／白井洋子訳 ¥3500

【価格は税抜】

〒101-0065

千代田区西神田2-4-1東方学会本館

 刀水書房

tel. 03-3261-6190 fax. 03-3261-2234

http://www.tousuishobou.com

# フランス革命とパリの民衆

―「世論」から「革命政府」を問い直す

松浦義弘著 A5判468頁

本体5800円

手稿史料を丹念に読み解き、「ジェルミナルのドラマ」と「テルミドル9日のクレータ」をおして、パリの民衆がフランス革命をどう動かしたのかを考える。

## 世界史リブレット人

各本体800円

### 8 ユリアヌス ―逸脱のローマ皇帝 南川高志著

4世紀、諸々の問題を抱えたローマ帝国の統治にあたった皇帝としてユリアヌスの生涯をたどり、その行動・思想をおして「背教者」としてではない一面を描く。

### 35 マルコ・ポーロ

海老澤哲雄著

―『東方見聞録』を読み解く

『東方見聞録』を改めて深く読み解き、自らを語ることの少なかつたマルコ・ポーロの人物像に光を当てる。

### 37 李成桂

―天翔る海東の龍

桑野栄治著

14世紀末、高麗を倒し朝鮮王朝を建国した李成桂。東アジアのなかの朝鮮半島という視点から、彼の生涯と政治状況をたどる。

### 90 陳独秀

―反骨の志士、近代中国の先導者

長堀祐造著 近代中国の思想的起点ともいべき、新文化運動を指導した陳独秀。新中国で長く否定的に扱われた彼の人物像を、最新の研究成果と新たな史料をもとに復元する。

史学会125周年リレーシンポジウム  
●四六判 240×260頁 各本体2000円

## 1 教育が開く新しい歴史学

大阪大学歴史教育研究会・史学会編

歴史教育の危機的現状に対し、改善を系統的に担うことができる研究者、教員の養成には何が必要かを問う。

## 2 東北史を開く

東北史学会・福島大学史学会・史学会編

東日本大震災の経験を歴史学界ではどう受け止めるべきか、また「東北」という地域の枠組み、さらに「中心・周縁」という捉え方の問題などを考える。

## 3 災害・環境から戦争を読む

史学会編

自然災害や環境を歴史のアクターとして登場させ、戦争との関係を問うことで、新しい視点から世界を展望する。

## 4 過去を伝える、今を遺す

―歴史資料、文化遺産、情報資源は誰のものか

九州史学会・史学会編

公共考古学・アーカイブス学と歴史教育をからませ、記録や記憶をどう活かすべきかを考える。

## もういちど読む 山川哲学 ことばと用語

小寺聡編 A5判 320頁

本体1500円

先人のことばと思想を解説する「ことば篇」と、人生哲学に必要な1000を超える用語をまとめた「用語篇」で構成。

山川出版社

東京都千代田区内神田 1-13-13

電話 03-3293-8131 <http://www.yamakawa.co.jp>

(表示は税別)

戦後70年  
“あの戦争”とは  
何だったのか？

吉田 裕・森 武麿 編  
伊香俊哉・高岡裕之 編

四六倍判 / 特価25000円  
(期限16年3月末まで、以降27000円)

# アジア・太平洋戦争辞典

今を生きる私たちが、  
改めて問い直すための  
本格的《戦争》辞典！



【内容案内】送呈

「昭和天皇実録」講義 生涯と時代を 古川隆久・森 暢平 編  
記述の要点を平易に解説。最も信頼の置ける。実録・ガイド。A5判 / 1800円 読み解く 茶谷誠一

鎌倉将軍・執権・連署列伝 日本史料研究会監修 細川重男編 A5判  
「人」でよむ 鎌倉武家政権の歴史。三十五人の行動や事績を解説。25000円

〈華族爵位〉請願人名辞典 菊判 / 15000円 松田敬之著  
なれた人、なれなかつた人！。華族への昇格を望み請願した約9000人を収録。

412 空海の文字とことば 岸田知子著 17000円  
弘法は筆を選んだ？ 五筆和尚と呼ばれた書生の達人、空海の姿に迫る！

413 皇居の近現代史 開かれた皇室像の誕生 河西秀哉著 17000円  
「国民との近さ・親しみ」と「伝統・権威」の間で揺れ動く皇室像を考える。

414 殺生と往生のあいだ 中世仏教と 芥米一志著 17000円  
動物を殺し、食へることは罪なのか？ 中世の罪業観と、人々の暮らし。

415 戦国大名の兵糧事情 久保健一郎著 17000円  
モノとして、カネとしての兵糧。兵士の腹を満たすだけではなかったその役割。

416 タネをまく縄文人 最新科学が覆す 小畑弘己著 17000円  
最新技術が検出した、土器の中に眠る考古資料が指し示す縄文時代の実像。農耕の起源

417 神と死者の考古学 古代の まつり信仰 笹生 衝著 17000円  
新視点による古代祭祀の復元と歴史的背景の分析。祭祀考古学の世界へ誘う。

◎東北の古代史 全5巻刊行中 四六判 / 各24000円

③ 蝦夷と城柵の時代 蝦夷社会と古代国家の交流と軌跡 (第3回) 熊谷公男編 四六判 / 各24000円

◎東北の中世史 全5巻刊行中 四六判 / 各24000円

③ 室町幕府と東北の国人 国人の動向から読み解く (第3回) 白根靖大編 四六判 / 各24000円

④ 伊達氏と戦国争乱 戦に明け暮れた東北の戦国大名たち (第4回) 遠藤ゆり子編 四六判 / 各24000円

現代語訳 小右記 ①三代の藏人頭 (第1回) 倉本一宏編 四六判 / 28000円  
撰訳政治最盛期の賢人右府・藤原実資が綴った日記を待望の現代語訳化。全16巻。

現代語訳 吾妻鏡 ⑩將軍追放 五味文彦・本郷和人・西田友広編 (第16回) 四六判 / 24000円  
鎌倉時代の基本的な歴史書を現代語訳化。【続刊】別巻 吾妻鏡に迫る(仮題)

撰訳政治と地方社会 (日本古代の歴史⑤) 四六判 / 28000円  
道長の榮華、受領たちの生悪、浄土教と末法意識……。中世への胎動の時代を描く。

④をあるく 尚氏と首里城 上里隆史著 四六判 / 20000円  
琉球の天下人、尚巴志と尚円。史跡を訪ね、彼らの職業と王国の盛衰に迫る。

おす 日本史 四六判 各22000円  
日 蓮 殉教の如來使 田村芳朗著  
伊達騒動と原田甲斐 小林清治著  
地理から見た信長・秀吉・家康の戦略 足利健亮著

吉川弘文館 (表示価格は税別) 〒113-0033・東京都文京区本郷7-2 / ☎03-3813-9151



歴史手帳 2016年版 A6判 900円  
全面改訂から1年、より使いやすくバージョンアップ！

# 歴史書懇話会

## ▶ 会員社名簿 ◀

- 明石書店 101-0021 千代田区外神田 6-9-5 〈担当者：深谷直樹〉  
TEL. 03-5818-1171 FAX. 03-5818-1174
- 校倉書房 169-0051 新宿区西早稲田 1-1-3 〈担当者：石田 亘〉  
TEL. 03-3203-4851 FAX. 03-3203-4854
- 思文閣出版 605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入元町 355 〈担当者：中江俊治〉  
TEL. 075-751-1781 FAX. 075-752-0723
- 東京堂出版 101-0051 千代田区神田神保町 1-17 〈担当者：鈴木 淳〉  
TEL. 03-3233-3741 FAX. 03-3223-3746
- 刀水書房 101-0065 千代田区西神田 2-4-1 〈担当者：中村文江〉  
TEL. 03-3261-6190 FAX. 03-3261-2234
- 同成社 102-0072 千代田区飯田橋 4-4-8 〈担当者：榎 祐典〉  
TEL. 03-3239-1467 FAX. 03-3239-1466
- 塙書房 113-0033 文京区本郷 6-8-16 〈担当者：関口守俊〉  
TEL. 03-3812-5821 FAX. 03-3811-0617
- 法藏館 600-8153 京都市下京区正面烏丸東入 〈担当者：西村明高〉  
TEL. 075-343-5656 FAX. 075-371-0458
- ミネルヴァ書房 [本 社] 607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1  
TEL. 075-581-0296 FAX. 075-581-0589  
[東京支社] 101-0052 千代田区神田小川町 2-4-17 大宮第 1 ビル 6F  
TEL. 03-3296-1615 FAX. 03-3296-1620 〈担当者：杉田信啓〉
- 山川出版社 101-0047 千代田区内神田 1-13-13 〈担当者：菊池敏彦〉  
TEL. 03-3293-8132 FAX. 03-3292-2994
- 吉川弘文館 113-0033 文京区本郷 7-2-8 〈担当者：春山晃宏〉  
TEL. 03-3813-9151 FAX. 03-3812-3544

2016年1月1日発行・第223号

取扱店

発行 **歴史書懇話会**

113-0033 文京区本郷 7-2-8 吉川弘文館内  
(非売品)